

阿弥陀堂の千川家墓地



阿弥陀堂の釣鐘は1820年（文政3年）のものですが、『神明山清性寺持阿弥陀堂』と記されています。元は清性寺の施設だったらしい。
（練馬区文化財）

千川上水は江戸の発展により人口が増加するにつれ、江戸の水不足を解消するため、玉川上水などと江戸六上水の一つとして整備されました。

玉川の上流、羽村市にある分水口から取水され、武蔵野市と西東京市の境で玉川上水からさらに分岐して千川上水となります。現在の練馬区の千川通りがその流れのあった場所です。練馬の村々ばかりでなく、田畑の開発や水車の営業に大きく貢献した上水です。

阿弥陀堂にある千川家の墓地は千川上水の開さくを請け負った千川徳兵衛家のものです。幕府から徳兵衛と太兵衛が工事を請け負い、幕府からの工事費では不足で、不足分は私費を投じて完成させました。

この功により、苗字・帯刀を許され、千川の姓を名乗るようになりました。

1737年（元文2年）徳兵衛の二代後の源蔵の代に下練馬に居を構え、明治までの数代にわたり北町に住んでおられました。現在も、末裔の方が墓地を管理しておられます。



ねりま大根の発祥となった金兵衛家の墓地も、この阿弥陀堂内にあります。
【非公開】



金兵衛さんの墓

大山道(おおやまみち)道標(どうひょう)

大山道の道しるべであり、もとは、旧川越街道との分岐点に建っていたものです。

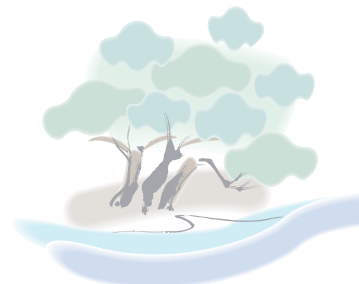
関東では江戸時代から富士講や大山講が盛んでした。この道はふじ大山道とも呼ばれ人々は富士や大山に行くときは白い装束をまとい、行者行列を組んで、団体で向かいました。富士山に詣で、帰りは大山の阿夫利神社を参拝し、江の島などにも寄って帰ってくる行程もあったようです。

下練馬宿から西へ向かい、環八から富士街道へとつながりますが、ほぼこのルートが元のふじ大山道にあたります。

西東京市、府中を経て神奈川県の伊勢原にある大山に至ります。

この道しるべは1753年（宝暦3年）の銘があり、約260年前に建てられたものです。建てる時の代表者は願主として並木庄右衛門と内田久右衛門の名が刻まれています。

大山の雨降山大山寺の本尊と同じ不動明王であり、その下の石柱に「従は大山道」脇に「ふじ山道 田なしへ三里 府中江五里」と行先と距離が刻まれています。



大山道道標と不動明王